



稲葉健二の
ひと言メッセージ

稲葉健二 後援会
市川市八幡2-2-10
TEL 333-1783
FAX 334-1990

内部討議資料

希望に満ちた新しい年、2004年が始まりました。わたくし稲葉健二は、次代を担う子どもたちのため、社会的に弱い立場の方々のために、今年も頑張ります。皆様のご指導・ご声援よろしくお願いいたします。

昨年12月に開会されました市議会「定例会」におきまして、一般質問をさせていただきました。各関係者の方々より真剣にご答弁をいただき、より良い方向への手ごたえを感じました。一般質問の内容は下記の通りです。これからも行政と一体となり、市川のために働きます。

核家族化が加速している現在、高齢者の方々の悩み、子育て中の若いお母さんの悩み、そんな世代の垣根を取り払ったシステムを作りたいと思っています。

僕らが子どもの頃のように、おじいちゃんからいろいろな遊びを教わる、おばあちゃんから戦争の恐ろしさを教わる、若いお母さんは、おばあちゃんから子育てのことをご指導してもらおう。必要なことですね。

そして、子育てお母さん(親子)の居場所作り。公園などでのコミュニケーションの他に子育てお母さんと地域ケアシステムを連携させて、三世代間の交流と居場所作りを考えています。

平成11年から始まったこのイベント、その街の魅力をその地域の方々から自ら引き出し、自分たちの街の文化を大切にしたいとの発想から生まれました。

この先も、この地域に芽生えた文化活動を大切に、定着、発展していけたらって考えてます。

こういったイベント大好きな稲葉健二、めいっばい協力させていただきます。

〇教育行政について



①スクールサポートスタッフのあり方について。

②特別な教育的支援を必要とする子への対応について。

〇福祉行政について



①地域ケアシステムのあり方について。

②地域ケアシステムと子育て支援との連携について。

〇文化振興活動について

①市川市文化会館の運営と施設改善について。

②市川市市民会館の運営と施設改善(敷地内のプレハブ庁舎も含む)について。

③街回遊展のあり方について。



子どもたちが、安心して学べる、いろいろな経験ができる、そんな教育環境をスクールサポートスタッフを上手に活用して作り上げられたらなあって考えています。それには、スクールサポートスタッフの増員。行政に働きかけて実現させなくては…

特別な教育的支援を必要とする子への対応も、学校、保護者だけでなく、専門的な知識を持つ外部組織とも連携を取って取り組んでいけるように頑張ります。

仕事柄、昔から市民会館、文化会館を利用することが多々ありました。いつも感じていたことは、社会的弱者の方々にとっては決して使いやすくできていないということ。早急に改善してほしい事柄です。

また、市民会館駐車場にあるプレハブ庁舎、行政の仕事にとって大切な場所ということは理解できるのですが、駐車台数の減少、市民会館への機材の搬入の妨げを考えれば、一考の価値ありと思っています。

地域ケアシステムってなあに？

少子高齢化の進展とともに、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加し、核家族化が着実に進行し、家庭内や地域住民との人間関係の希薄化に起因する社会問題が増える中で、地域社会の住民同士が連帯意識を持ち、支え合いや助け合いなどの福祉活動を充実させることで、誰もが安心して暮らすことができるようにとの考えが始まり。そのような考えを持った地域住民の方たちと、社会福祉協議会、市川市が協力し、平成12年にその方針を取りまとめました。平成13年度に二つの支部からスタートし、現在六つの支部にて活動しています。

活動内容は、各支部の公民館などに地域から選ばれた相談員を配置し、福祉の「なんでも相談所」が開設されております。

スクールサポートスタッフってなあに？

小中学校において、教師も生徒も安心して授業を行えるよう、また校外学習や体験活動などにおいて担任とともに安全面に配慮できるよう、またその他のサポートのためにスタッフを配置するというシステムです。

学校からは、生徒も教師も集中して授業に臨めるようになった、学級・学年運営が安定した、安全面で実施をためらっていた活動にも取り組めるようになったなどの声が届きスクール・サポート・スタッフは学校運営の大きな支えになっています。